

各市町村・環境保全団体等からの第2期計画（案）に対する意見と反映状況について

資料No.5

番号	団体名	意見概要	反映状況	反映内容
①	一関市	環境保全活動に関わる取組を行っている岩手県公衆衛生組合連合会の事務局が岩手県健康福祉部健康国保課にあり、資源循環推進課ではオブザーバー参加となっている。活動に対する支援を強化するのであれば、各市町村の公衆衛生組合に積極的に関与（補助メニューの拡充、一本化など）してはいかか。	計画遂行時に努力する	・第2期計画策定ののち、岩手県公衆衛生組合連合会を通じて各市町村の公衆衛生組合に対して周知するとともに、環境美化活動の推進を支援を検討していきます。
②	宮古市	通年的、定期的に海岸線を細かく調査する調査員を委嘱し、海岸漂着物等の発生を確認した場合に必要な対策を求める等の対応を検討すべき。	対応は困難	・調査員を委嘱して県が取締る体制は法令上の規定もなく、現時点では困難です。海岸管理者等に必要な対策を求めることとします。
③	かまいし環境ネットワーク	・森川海条例をもとに流域協議会が設置されて以来時間がたち、役割を理解している会員が少ない。また、高齢化に伴い、町内会長や団体の長が後継者不足もあって固定化され、特に釜石市においては協議会自体の内容が形がい化していると感じる。この地域計画をもとに改めて組織を見直す必要があると考える。	計画遂行時に努力する （流域協議会組織の見直しは直ちに対応は困難）	・海岸漂着物等の原因となる河川等の清掃の担い手である流域協議会の活動の活性化のため、流域協議会等への支援を明記します（P39）。 なお、流域協議会自体の組織見直しは、各地域の実情を踏まえて、各流域協議会で話し合われるものと考えます（必要に応じて広域振興局保健福祉環境部でサポートします）。
④		・アクセスのむずかしい海岸のゴミは放置されたまま。早期の実態把握をしていただきたい。	計画遂行時に努力する	・同様の問題は依然から指摘されています。アクセスが難しい海岸漂着物等の処理については、各市町村と連携で対応に努めます。
⑤		・ブルーカーボンのような新しい価値や概念をより分かりやすい内容にして、特に漁業者や漁業につく若い人たちへの啓もうが必要。また、例えば、国連の言うTeach the Futureなども理解しやすく様々な機会に広めていくため取り上げていただきたい。	計画遂行時に努力する	・ブルーカーボンの形成の観点からも環境保全に係る啓発活動の推進に努めます。
⑥		・海岸清掃をする団体、学校の数が増えていくことは大変うれしいことだと思うが、参加人数報道だけでなくゴミの実態調査も含め、岩手県広報誌「岩手グラフ」などで繰り返し取り上げてほしい。環境省の調査結果より一桁少ないことを言うよりは、海は一つであるのだから、全体を見渡せる結果の周知を願いたい。非デジタル世代への周知の方法を探してほしい。	計画遂行時に努力する	・引き続き県民への周知や啓発活動に当たっては、あらゆる年代層に浸透できるよう多様なパブリシティの活用にも努めます。
⑦		・漁業者だけでなく、釣り人や観光客などの意識づけのためにも、回収BOXを目立つところに設置し、市町村のみではなく県も管理できるようにしてほしい。	意見として承る	・釣り人や観光客への啓発は行うこととし、回収したごみの処理等は市町村が主として担うことから、どのような対応が可能か市町村とも協議を進めていきます。

各市町村・環境保全団体等からの第2期計画（案）に対する意見と反映状況について

資料No.5

番号	団体名	意見概要	反映状況	反映内容
⑧	かまいし環境ネットワーク	<p>・水生生物調査において、岩手県環境アドバイザーとして担当するときは、「楽しみながら観察」に主眼を置くが、最後には川をきれいにする目的は何かと問うことにしている。海に汚染が流れ、魚が食べられなくなることへと導いていく授業になるように努める。寄せられた感想文には「川のごみを拾う」や「ゴミを捨てない」などが見られるのが嬉しい。しかし、これも一過性である。小学校6年間を通じて、森と川と海のつながりを意識できるような教科横断的な授業の組み立てが必要。そのためには環境教育を義務化する必要があると考える。学校の多忙さを思うと、そこに環境アドバイザーや地域の有識者の助けを借りることが容易になる仕組みを構築してほしい。</p> <p>また、それ以前に、教職に就く前に水生生物調査の方法の研修や実際の経験を課することが必要。</p>	対応は困難	<p>・子どもへの学習資材の提供のみでは不十分であることから、環境学習と海岸等の清掃活動と一体となった取組が浸透できるように努めることとします。</p> <p>・意見として挙げられた、学校の教育課程に環境教育を義務付けること、教職員の採用に当たって水生生物調査の方法の研修・経験を課すことは直ちに対応は困難です。</p>
⑨		<p>・小学校への環境副読本の配布は前項の取り組みがあってこそ効果が出ると思われる。現実には配布されたまま本棚や押し入れ、倉庫にしまったまま使われないで卒業するという実態が垣間見られる</p>	計画遂行時に努力する	<p>・上記回答と重複しますが、子どもに対しては、環境学習と海岸等の清掃活動の一体となった取組が浸透できるように努めます。</p>
⑩		<p>・イベントなどで行われる風船や人工物を飛ばしたり、リリースすること、そして、町のあちこちにPRのために掲げられるフラッグや飾りを放置すること。リリース、飾りつけるなら回収することを県民の役割として義務付けることを望む。</p>	対応は困難	<p>・催事主催者に対して、散乱ごみの懸念がある資材の自粛を要請することは可能ですが、回収義務までは難しいと見込まれます。催事に参加した県民の皆さん等がしっかりとごみを持ち帰る等の対応が行えるよう啓発に努めます。</p>
⑪		<p>・県民すべて、特に内陸に住む人々に当事者意識を持ってもらうためには、海に漂う廃棄プラスチックによって地球温暖化がさらに悪化するという研究を知ってほしい。（ハワイ大学において2018年に発表されている。）</p> <p>2050年には魚の数より廃プラの数が上回るという試算もある。さらに海面、海中に漂う廃棄プラの劣化の過程においてメタンガスとエチレンガスが排出されるという研究結果が意味することをより多くの大人にわかっていただきたい。地球環境保全に役立ち、未来の子どもたちへ住みやすい地球を残していくためにも「ごみを捨てない、拾う」という普通の行為が日常に行われ、当たり前となることが理想だ。特に資源循環型社会を構築するという努力にもかかわらず、携帯電話等のCMなどで子どもにも購買をあおる大量生産、大量消費、大量廃棄の悪癖が是正されていない。その一方でソマリアやパキスタンなどで気候変動が原因で飢餓で死にゆく子どもたちがいるという実態を知ってもらうため、<u>あらゆる機会を使って大人にそして学校教育で取り入れていくべきだと考える。</u></p>	同趣旨は素案に反映済	<p>・地球温暖化防止と海洋環境の保全の両方の観点を踏まえた環境学習や県民への普及啓発に努めます（P44）。</p>
⑫		<p>・「海岸漂着物対策に関する関係者の役割分担」の主体が「県民」の項に関しては、DX利用はもちろんだが、県の広報、市町村広報などで定期的に掲載し意識啓発を図ってほしい。誰一人取り残さないために。</p>	計画遂行時に努力する	<p>・デジタル化を進める一方で、デジタル化により必要な情報が入手できない事態とならないようにあらゆるパブリシティを活用して啓発に努めます。</p>

## 各市町村・環境保全団体等からの第2期計画（案）に対する意見と反映状況について

番号	団体名	意見概要	反映状況	反映内容
⑬	かまいし環境ネットワーク	・民間団体の活動を支援するためのプロセスにおいて、県から民間へ直接、能動的に働きかける姿勢がほしい。民間及び個人的に地道に、自発的に活動している団体がいるはずである。そういう人々がどういう課題に悩んでいるかを積極的に探す構えがあれば、自ずと情報が集まり支援のやり方が見えてくるはずである。例えば、海岸や川沿いのごみ拾いを企画した場合、町内会清掃とは違った悩みが出てくる。ボランティア保険に入るかどうか、不特定多数に周知すべきかどうか、周知はどうするか、行政に通知すべきかどうか、立ち入ってもいい場所なのかどうか、どういう危険があるか、駐車場はどうするか、拾ったゴミはどう処分するか、大型、重量のあるゴミはどうするか、などが考えられる。	同趣旨は素案に反映済	・団体や企業等が海岸漂着物等の回収などが行えるよう、必要なコーディネートと支援に努めることとしており、意見を踏まえて具体化をめざします（P39）。
⑭	雪谷川を守る会	・概要書は「県民・自治体向け」「団体・企業・自治体向け」のように、何種類かで描いていただけると、自分たちがやるべきことを明確に理解しやすくなると思います。	計画遂行時に努力する	・第2期計画策定後の県民への周知に当たっては、それぞれの役割ごとに周知に努めることとします。
⑮		・漂着物等の現状と課題では、回収処分されたゴミが重量ベースだけで描かれており、自然物が殆どというグラフです。でも、1本の流木の重量に相当するプラゴミを容積で見れば流木の何十倍にもなり、プラゴミ一つ一つを回収する為には多くの庶民の協力が必要不可欠です。プラゴミをもっとクローズアップしてアピールすることを望みます。	同趣旨は素案に反映済	・第2期計画上は重量ベースでの海岸漂着物等の概要を掲載していますが、容積的にはプラスチックゴミが一定の割合を占めること、プラスチックゴミは自然界で分解できず、マイクロプラスチックとなる懸念が高いことから、プラスチックゴミの対策を中心に対応を盛り込むこととしています。
⑯		・年度での回収が示されており、令和元年の台風による流木が例年の10倍にもなっていることやプラゴミも例年の3倍に増えており、河川のゴミが災害を大きくした要因の一つと推測されます。これらのデータも用いて、河川でのゴミ拾いや中洲のアシや倒木の適正な処理などの重要性も取り上げて、 <u>上流の市町村が果たすべき役割を強調することを望みます。</u>	同趣旨は素案に反映済	・内陸部の市町村を含めた対策が必要であることを明記しています。また、内陸部のゴミとの関連を分かりやすく説明するためにポンチ絵を加えました（P32）。
⑰		・DXのイメージとして望むことは、河川の清掃活動で現実に苦勞している事柄が改善されるという期待に繋がる内容を示して欲しいと思います。具体的に苦勞していることは、海岸漂着物でも集計されている「アシ・流木」は河川清掃で数か所に集めてもその先の捨て場がなく、役場に相談しても捨て場の支援すら得られないのが現状なので、暫定的に土手に寄せて置くしかない状態です。一番困るのが古タイヤの不法投棄です。自治体では回収してくれないので、業者に委託するか処理できる場所まで持ち込まなければなりません。1本の古タイヤにそんな手間やお金は掛けられないので、数本溜まるまでの置き場を自分たちで確保して、数年溜めて自分たちで処分しているのが現状です。 この様な顕在化している現状のインフラの問題を改善し仕組みを整えて、スマホでゴミの状況を報告したら迅速に適切な指示が受けられ、自分たちで処理できないものは自治体等で迅速に回収され、それらのデータは更なる改善へと活用される。この様な、迅速なアクションでストレスが無くなるDXを望みます。	計画遂行時に努力する	・河川清掃活動での懸念事項として、環境保全団体が回収したごみの処理を市町村等が引き受けていただけるような仕組みの構築です。海岸漂着物等は一般廃棄物とされており、市町村が処理責任を有しますが、処理困難物等の対応ができず、市町村が回収に応じない事例が少なくありません。 ・県としては、環境保全団体による回収が滞ることのないよう、市町村に対して回収したごみの引取りを要請していきます。

## 各市町村・環境保全団体等からの第2期計画（案）に対する意見と反映状況について

番号	団体名	意見概要	反映状況	反映内容
⑮	雪谷川を守る会	・根本的な原因であるポイ捨て・不法投棄の撲滅に関しては、環境学習や啓発による環境マインドの高い人を増やすことは重要ですが、この様な取り組みに全く関心が無い中高年の人、逆に反発するような今現在も平気でポイ捨てをしている人に対する啓発が課題ではないでしょうか。歩行者が殆どいない道路沿いや河川敷の古タイヤなど、車からのポイ捨て・不法投棄と推察されるゴミが後を絶ちません。環境月間の啓発ポスターだけでなく、客のほとんどが車で来店するコンビニや道の駅などには「ポイ捨ては犯罪」を意識させるポスターが常に目につくような、的を絞った施策も、環境教育を受けた人の世代に完全に移行する間には必要ではないでしょうか。	計画遂行時に努力する	・ごみへの意識が低い方への対応に関し、モラル向上に努めるとともに、ごみを投げないことが環境美化につながるということ、ナッジ理論などを活用しながら主体性が持てるアプローチ手法を検討し、今後の普及啓発活動に活かしていきます。
⑯	くじ・川の会	環境学習啓発に関し、意識の高揚をはかることが重要であり、私の行動を支えるのは次のような考え方である。ヒトという生き物は生命のピラミッドの頂点に立っていて、多くの生き物によって支えられている。ピラミッドの下の部分に生存している生き物（植物や動物）が減ればヒトは減びる。この考え方を私は「自然界で生きるヒトのマナー」と考えているが、このマナーを私も100%守っているとは思っていないが伝えていきたいものである。 また、発生抑制のために使用削減も考えるべきではないか。	意見として承る	・頂戴した意見を踏まえて対策を進めます。
⑰	夏井川堤の景観を創る会	・久慈市内一斉ゴミ拾いでは、住家の近くのゴミは少なくなっていますが、山道の脇にはまとめたゴミが捨てられています。大雨などで川に流れていきます。対策として不要物を回収するシステム（搬出場所の設置）等の対策ができればよいと思う。	意見として承る	・頂戴した意見を踏まえて対策を進めます。また、不用物を回収するシステムは市町村と連携して回収できるように市町村に要請していきます。